

間寛平さん 町民を元気づける

RUN FORWARD KANPEI みちのくマラソン

東日本大震災からの復興を願い、岩手、宮城、福島三県を縦断するマラソンに挑んでいる間寛平さんが8月20日、小野町に到着し、町内をマラソンしながら町民に笑顔と勇気、元気を与えてくださいました。

またマラソン終了後、風評被害の払しょくと町民との交流を図るため、町内農産物直売所「おのげんき」を訪問し、生産者や来場者にエールを送るなど大いに元気づけてくださいました。



「おのげんき」を訪れた間さん(中央)



私は10人兄弟の8番目に生まれました。家は農家なので、小さい頃から家の手伝いをさせられ、水くみ、風呂たき、タバコ挟みなどいろいろな手伝いをしました。辛かったです。でも手伝いの合間に、夏は近くの川で遊びました。今思い出すと辛さより、懐かしさの方が先ですね。昭和35年に吉野辺を離れ、愛知県に就職して「愛知用水工事」に従事しました。その後は仕事の関係で各地を転々として、昭和40年に埼玉県戸田市の住民になりました。家の前を「菖蒲川」という川が流れていて、名前とは大違いの汚い川にびっくりました。そこで「戸田の川を考える会」に入会し、毎月2回の清掃活動に参加することにしました。いず



人生を振り返って

先崎 助直
(吉野辺出身/埼玉支部)

これは、ふるさとにある「夏井川」のようにきれいな流れに戻りたいと考え、20年間活動を続けた結果、悪臭も消えて川もきれいになり、魚が泳ぐ姿も見られるようになりました。初めてボラやコイが泳ぐ姿を見たときは涙がこぼれるくらいうれしかったです。こんなことがきっかけとなって、私と戸田市との関係が生まれ、さらにおととしから「戸田市商工祭」に小野町からの出店、加えて戸田市を拠点として活動している「荒川の歌合唱団」との人的交流が始まって、小野町と戸田市との関係が友好ムードに発展していったことを大変うれしく思っています。「ふるさと小野町」の

曲もこんな中から生まれました。
私が「ふるさと小野町会」に入会したのは、帰省したとき、今は亡き実家の兄に勧められたことによりです。現在は埼玉支部長を務め「新年会」「花見」などを計画しています。参加者の話を聞いていると、皆さんが故郷を大切にしている気持ちがよく伝わってきます。会員の皆さんが協力してくれて、次は何をやるのか、次は「ふるさと料理」でいこう…など「ダッペ調」を交えた和気あいあいの姿は、当地での「ふるさと小野町」版そのものです。私にとって、田舎での18年間は辛いときもありましたが、今はかけがえのない大事な、大事なふるさとです。田舎に帰るたび、この空気、この風景がいつまでも変わらないでいてほしい…と願いつつ、戸田のわが家に戻ってまいります。